

## 【補充資料4 - 】年間指導計画

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

### 1 教科目標

教科	目標
外国語	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

### 2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

### 3 各学年での指導科目と目標

#### 1 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
英語	3	日常な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修
オーラルコミュニケーション	2	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修

#### 2 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
英語	2	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修
ライティング	4	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	選択必修

#### 3 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
英語	2	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修
リーディング	4	英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	選択必修

【補充資料4 - 】年間指導計画 (英語)

英語 は英語 に準じて、リーディング、ライティングは英語 の関連領域の内容を参考とする

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

教科目標 日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	日常的な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを理解する。	日常的な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを正確に理解することができる。

評価の観点の趣旨 内容のまとめ ごとの学習内容		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
聞くこと	英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	「聞くこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・相手を見て話を聞いたり、必要に応じてメモを取るなど、相手の話に関心をもっている。 ・聞いたことについてジェスチャーや簡単なことばで応答したりしている。 ・聞いた内容について意見や感想を述べようとしている。	日常的な話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。 ・日常の話題についての英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読したり暗唱したりすることができる。	日常的な話題についての英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを正確に理解することができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に聞きとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続ける。 ・理解できないとき、確認したり、繰り返しや説明を求めたりしている。 (コミュニケーションの継続) ・必要に応じて辞書などを活用している。	(正確な音読) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、音読したり暗唱したりすることができる。 (適切な音読) ・文章の意味や作者の意向などを考えて適切に音読したり暗唱したりすることができる。	(正確な聞き取り) ・リズムやイントネーションなど基本的な英語の音の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。 ・聞いた内容について正しく理解することができる。 (適切な聞き取り) ・聞いた内容について概要や要点を把握することができる。 ・さまざまな口調や速度で話されたり読まれたりする英語の内容を聞きとることができる。	(言語についての知識) ・連音や音変化などを聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・「聞くこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
読むこと	英語を読んだりして、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	「読むこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	日常の話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。 ・日常の話題についての英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読したり暗唱したりすることができる。	日常の話題についての英語を読んだりして、情報や考えなど書き手の伝えようとしていることを正確に理解することができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に読みとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・必要に応じてメモを取るなど、読んで内容に関心をもっている。 ・読んだ内容について意見や感想を述べようとしている。 ・必要に応じて辞書などを活用している。 ・音読や暗唱に積極的に取り組んでいる。 (コミュニケーションの継続) ・理解できないところがあっても、推測するなどして読み続けている。	(正確な音読) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、音読したり暗唱したりすることができる。 (適切な音読) ・文章の意味や作者の意向などを考えて適切に音読したり暗唱したりすることができる。	(正確な読みとり) ・書かれた内容について概要や要点を把握することができる。 ・文や文章を目的に応じた適切な速さで読みとることができる。 (適切な読みとり) ・読んだ内容について概要や要点を把握することができる。 ・文や文章を目的に応じた適切な速さで読みとることができる。	(言語についての知識) ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・文字や符号を識別する知識を身に付けている。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・文章の流れについての知識がある。 ・「読むこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
話すこと	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話したり意見の交換をしたりする。	「話すこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	日常の話題について英語で情報や考えなどを正しく話すことができる。 ・日常の話題について、場面や目的に応じて適切に話すことができる。	日常の話題について英語で情報や考えなどを正しく理解することができる。 ・日常の話題について、場面や目的に応じて適切に聞きとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違えることを恐れず自分の考えなどを話している。 ・言語活動において、自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って話している。 ・ペア・ワークやグループ・ワークなどにおいて積極的に話したり意見の交換をしている。 (コミュニケーションの継続) ・うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。	(正確な発話) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、話すことができる。 ・文法に従って正しく話すことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 (適切な発話) ・伝えたい内容、場面、相手、目的などに応じて語句や表現を選択し適切に話すことができる。 ・相手の発話に対して適切に回答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさで話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。	(適切な発話) ・伝えたい内容、場面、相手、目的などに応じて語句や表現を選択し適切に話すことができる。 ・相手の発話に対して適切に回答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさで話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。	(言語についての知識) ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・「話すこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
書くこと	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。	「書くこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	日常の話題について、得た情報や自分の考えを正しく書くことができる。 ・日常の話題について、場面や目的に応じて、英語で適切に書くことができる。	日常の話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを正確に理解することができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に聞きとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違えることを恐れず自分の考えなどを書いている。 ・自ら進んで書いたものを読み直し、意欲的に書き直したりしている。 ・自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って書いている。 ・必要に応じて辞書などを活用している。 (コミュニケーションの継続) ・よりうまく伝わるように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・表現できないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。	(正確な筆記) ・文法に従って、正しく書くことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に書くことができる。 (適切な筆記) ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。 ・伝えたい内容、場面、読み手、目的などに応じて、語句や表現を選択し適切に書くことができる。 ・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(適切な筆記) ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。 ・伝えたい内容、場面、読み手、目的などに応じて、語句や表現を選択し適切に書くことができる。 ・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(言語についての知識) ・文字や符号などを使い分ける知識を身に付けている。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・文章構成についての知識がある。 ・「書くこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。

【補充資料4 - 】年間指導計画 (オーラルコミュニケーション)

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

教科目標 日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心をもち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、比較的平易な英語を聞いて、情報や考えなどを相手に伝えようとすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

評価の観点の趣旨 内容のまとまり ことの学習内容	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
聞く コミュニケーション活動	英語を聞いてその内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に反応する。	「聞くこと/聞いて応じること」の言語活動に積極的に、主体的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなどを相手に伝えようとすることを正確に理解することができる。 日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて適切に聞くことと聞いて反応することができる。	日常生活の身近な話題について、「聞くこと/聞いて応じること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	<p>評価規程</p> <p>（言語活動への取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て話を聞いたり、必要に応じてメモを取るなど、相手の話に関心をもっている。</li> <li>聞いたことについてジェスチャーや簡単なことばで応答したりしている。</li> </ul> <p>（コミュニケーションの継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続けている。</li> <li>理解できないとき、確認したり、繰り返しや説明を求めたりしている。</li> </ul>	<p>（正確な聞き取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムやイントネーションなど、基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。</li> <li>聞いた内容について正しく理解することができる。</li> </ul> <p>（適切な聞き取り）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞いた内容について大切な部分を把握することができる。</li> <li>質問、依頼、指示などに対して、適切に反応することができる。</li> <li>自然な口調で話されたり読まれたりする英語の内容を聞き取ることができる。</li> </ul>	<p>（言語についての知識）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連音や音変化などを聞き分ける知識がある。</li> <li>場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。</li> <li>場面や状況、目的に応じた表現を知っている。</li> <li>「聞くこと/聞いて応じること」に用いられている語句や文法を知っている。</li> </ul> <p>（文化についての理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。</li> <li>家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。</li> <li>人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。</li> </ul>	
対話 コミュニケーション活動	関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。	対話による言語活動に積極的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題で関心のあることについて、英語で正しく話すことができる。 日常生活の身近な話題で関心のあることについて、英語で適切に質問したり答えたりすることができる。	日常生活の身近な話題について、「対話すること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	<p>評価規程</p> <p>（言語活動への取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>間違っことを恐れず関心のあることについて相手に質問している。</li> <li>自ら学んだ表現などを使って話している。</li> <li>相づちを打つなど、相手の話に関心をもって聞いている。</li> <li>ペア・ワークなどにおいて積極的に協力しあっている。</li> </ul> <p>（コミュニケーションの継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</li> <li>つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。</li> <li>交互に話し手や聞き手として、対話が長くように協力し合っている。</li> </ul>	<p>（正確な対話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。</li> <li>文法に従って話すことができる。</li> <li>話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができる。</li> </ul> <p>（適切な対話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な話題を選んで話すことができる。</li> <li>話題や相手によって語句や表現を選んで対話を始め、継続し、終わらせることができる。</li> <li>適切な速さや声の大きさを話すことができる。</li> <li>相手の理解を確認し、それに応じて話すことができる。</li> </ul>	<p>（正確な対話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強勢やイントネーションなどから、話し手の意図などを正しく理解することができる。</li> <li>相手の話の内容を正しく聞き取ることができる。</li> </ul> <p>（適切な対話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然な口調で話された英語の内容を聞き取ることができる。</li> <li>聞かれたことに対して素早く適切に反応することができる。</li> </ul>	
話す コミュニケーション活動	情報や考えなどを、場面や目的に応じて適切に伝える。	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを英語で正しく話すことができる。 日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて英語で適切に話すことができる。	日常生活の身近な話題について、「話すこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	<p>評価規程</p> <p>（言語活動への取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>間違っことを恐れず自分の考えなどを話している。</li> <li>自ら学んだ表現などを使って話している。</li> <li>関心をもって質問している。</li> <li>ペア・ワークやグループ・ワークなどにおいて積極的に協力しあっている。</li> </ul> <p>（コミュニケーションの継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</li> <li>つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。</li> </ul>	<p>（正確な発話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。</li> <li>文法に従って話すことができる。</li> <li>伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。</li> </ul> <p>（適切な発話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面や目的に応じて語句や表現を選択し、適切に話すことができる。</li> <li>相手の発話に対して適切に回答することができる。</li> <li>場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話すことができる。</li> <li>相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。</li> </ul>	<p>（正確な発話）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強勢やイントネーションなどから、話し手の意図などを正しく理解することができる。</li> <li>相手の話の内容を正しく聞き取ることができる。</li> </ul>	
口頭で発表 コミュニケーション活動	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとまり、発表する。また、発表されたものを理解する。	「口頭で発表すること」の言語活動に、話し手や聞き手として、積極的に参加している。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題について、情報や自分の考えなどを英語で正しく発表することができる。 日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて内容を整理し、英語で適切に発表することができる。	日常生活の身近な話題について、「口頭で発表すること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	<p>評価規程</p> <p>（言語活動への取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>間違っことを恐れず情報や自分の考えなどを発表している。</li> <li>自ら学んだ表現などを使って発表している。</li> <li>発表するための情報を積極的に収集している。</li> <li>相手を見て発表を聞いたり、必要に応じてメモをとるなど、相手の話に関心をもっている。</li> <li>聞いたことについて主体的に意見やコメントを述べようとしている。</li> </ul> <p>（コミュニケーションの継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解してもらえないように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</li> <li>つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。</li> <li>発表者の考えなどについて、確認したり説明を求めたりしている。</li> </ul>	<p>（正確な発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいリズムやイントネーションなどを用いて発表することができる。</li> <li>文法に従って、正しく話すことができる。</li> <li>伝えたい情報や考えなどを、聴衆に正確に話すことができる。</li> </ul> <p>（適切な発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいポイントを整理して発表することができる。</li> <li>伝えたい内容や話題などに応じて、適切な表現を選択し、発表することができる。</li> <li>聞き手の立場に立って、イラストや写真を使うなど工夫を凝らして発表することができる。</li> </ul>	<p>（言語についての知識）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。</li> <li>場面や状況、目的に応じた表現を知っている。</li> <li>「口頭で発表すること」に用いられている語句や文法を知っている。</li> </ul> <p>（文化についての理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。</li> <li>家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。</li> <li>人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。</li> </ul>	

【補充資料 4 - 】年間指導計画 の作成例

平成 17 年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画 ( 英語 )

学年	単位数	使用教科書：	1 単位時間の授業における評価規準			
1	4	使用副教材：	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
Lesson 1 A Volunteer in Mali	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の NGO に参加した村上氏のマリ共和国での活動の紹介</li> <li>S+V( be動詞) + C (=分詞)</li> <li>S+V+O+C(=過去分詞)</li> <li>相手に勧める表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を読んで、ボランティア活動について理解し、意見や感想を述べる。</li> <li>相手に勧める表現を用いて話そうとする。</li> <li>SVC / SVO C の形を用いて新しい英文を書こうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難読語を正しく発音する。decision / neighbor / bulletin / warn / encourage / measure / length / occasion / rarely 等</li> <li>SVC / SVO C の形を用いて正しい英文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話のイントネーション等を聞き分ける。</li> <li>英文の概要を読み取り要約する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[f][h]の違いを聞き分ける。</li> <li>子音と子音の連音を発音できる。</li> <li>SVC / SVO C の形を正しく理解できる。</li> <li>ボランティア活動に対する意識の違いを理解する</li> </ul>
Lesson 2 The Story of Coffee	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーヒーはエチオピアで発見され、以後ヨーロッパ市場から世界に広まったという説</li> <li>関係代名詞 who / which の非制限用法</li> <li>動名詞の意味上の主語</li> <li>具体例を示す表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を読んでコーヒーの歴史を理解しようとする。</li> <li>具体例を示す表現を用いて話そうとする。</li> <li>関係代名詞の非制限用法を用いて新しい英文を書こうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出語を正しく発音する。prayer / legend / originate / philosopher / efficient / commodity 等</li> <li>関係代名詞の非制限用法を用いて正しい英文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要約された英文を適切な早さで読み取る。</li> <li>補充英文を聞いて概要・要点を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係代名詞の非制限用法を理解する。</li> <li>動名詞の意味上の主語を理解する。</li> <li>コーヒー文化、紅茶文化を理解する。</li> </ul>
Lesson 3 Free the Children	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>「児童労働」の実態と、子供の権利のための活動を行っている少年の話</li> <li>進行形の受動態</li> <li>There is ~ 分詞</li> <li>必要を表す表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を読んで児童就労の現状を理解し、児童労働廃絶に向けた意見を書こうとする。</li> <li>必要を表す表現を用いて話そうとする。</li> <li>進行形の受動態を用いて新しい英文を書こうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出語を正しく発音する。labor / neighborhood / definite / equal / knowledge / dangerous 等</li> <li>進行形の受動態を用いて正しい英文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文の概要を読み取り、要約文を完成する。</li> <li>各パートを聞き取り、内容質問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進行形の受動態の意味・用法を理解する。</li> <li>There is ~ 分詞の意味・用法を理解する。</li> <li>児童就労の原因となる背景を理解する。</li> </ul>
Lesson 4 Sleeping with Lions	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>カラハリ砂漠で野生のライオン保護に努める学者の活動</li> <li>独立分詞構文</li> <li>不定詞の否定形・完了形</li> <li>よくない知らせを伝える表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>野生動物保護の現状を理解し、意見や感想を書いたり話そうとする。</li> <li>不定詞の否定形・完了形を用いて新しい英文を書こうとする。</li> <li>よくない知らせを伝える表現を用いて話そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出語を正しく発音する。approach / female / surgery / ideal / interfere / wound / curious 等</li> <li>不定詞の否定形・完了形を用いて正しい英文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文の概要を読み取り、出来事の年表を完成させる。</li> <li>動物保護に関する新聞記事を読み概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[r][l]の発音の違いを識別する。</li> <li>独立分詞構文の意味と用法を理解する。</li> <li>不定詞の否定形・完了形の意味と用法を理解する。</li> <li>野生動物減少の原因となる背景を理解する。</li> </ul>
Lesson 5 Life Is So Good	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>98 歳で字を習い始めた老人による 101 歳の時の自伝</li> <li>S+V(=be 動詞) + C (=that 節など)</li> <li>仮定法過去完了</li> <li>譲歩を表す表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を読んで学ぶ喜びについて理解し意見を述べようとする。</li> <li>仮定法過去完了を用いて新しい英文を書こうとする。</li> <li>譲歩を表す表現を用いて話そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出語を正しく発音する。literacy / repetition / envelope 等</li> <li>S+V+C(that 節)を用いて正しい英文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を読んで主人公に関する新聞記事を完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法過去完了の意味・用法を理解する。</li> <li>世界の国々の識字率に関する英文を聞いて現状を理解する。</li> </ul>
Lesson 6 My New Zealand Diary	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュージーランドでのホームステイ体験による文化比較</li> <li>分詞構文(過去分詞)</li> <li>関係副詞 where の非制限用法</li> <li>期待を述べる表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を読んで海外の諸事情を理解し意見を述べようとする。</li> <li>関係副詞 where の非制限用法を用いて英文を書こうとする。</li> <li>期待を述べる表現を用いて話そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出語を正しく発音する。officer / original / thorough / dairy / oven / souvenir 等</li> <li>分詞構文(過去分詞)を用いて正しい英文を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を聞いて料理のレシピを完成させる。</li> <li>英文を読んで滞在中の日程表を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分詞構文(過去分詞)の意味・用法を理解する。</li> <li>日本との文化の違いを理解する。</li> <li>ニュージーランドの風物を知り理解する。</li> </ul>

【補充資料 4 - 】 単元評価シート

実施日： 月 日	年 組 番 氏名
----------	----------

単元	Lesson 1 A VOLUNTEER IN MALI
単元目標	1. ボランティアの意義を理解し、積極的に社会にかかわろうとする意識をもつ。 2. 新出の語句と文法事項を理解し、書いたり話したりする際に活用できるようになる。 3. 相手に勧める表現を理解し、話したり書いたりする際に活用できる。 4. プリントを活用しながら内容をまとめ、語句等の理解を深める。 5. 内容を読んで理解した上で、自分の意見をまとめ、書いたり話したりできる。

	評価項目	自己評価	相互評価	教科担任評価
聞くこと	・聞いた内容の要点を理解する	3 2 1	3 2 1	4 3 2 1
	・関心をもって、相手を見て話を聞く	3 2 1	3 2 1	
	・理解できない部分も推測して聞く	3 2 1	3 2 1	
	[ 評価の平均 ]			
話すこと	・間違いを恐れず自分の考えを話す	3 2 1	3 2 1	
	・学んだ表現を進んで使って話す	3 2 1	3 2 1	
	・正しい文法やリズムで話す	3 2 1	3 2 1	
	[ 評価の平均 ]			
読むこと	・正しい発音で音読や暗唱をする	3 2 1	3 2 1	
	・必要に応じて辞書を活用して読む	3 2 1	3 2 1	
	・理解できない部分を推測して読む	3 2 1	3 2 1	
	[ 評価の平均 ]			
書くこと	・間違いを恐れず自分の考えを書く	3 2 1	3 2 1	
	・学んだ表現を用い辞書も活用して書く	3 2 1	3 2 1	
	・書いたものを読み直したり書き直したりする	3 2 1	3 2 1	
	[ 評価の平均 ]			

評価の基準は [ 3 ] どちらかといえできた  
 [ 2 ] どちらともいえない  
 [ 1 ] どちらかといえできなかった

	この単元で達成すべきこと	達成度	達成できなかった部分・項目・内容
1	本文の内容を理解し自分の意見をもつ	3 2 1	
2	新出語句の発音・意味をおぼえる	3 2 1	
3	SVC / SVOICを理解し正しく使う	3 2 1	
4	相手に勧める表現を理解し正しく使う	3 2 1	
5	本文を正しくスムーズに音読する	3 2 1	

達成度は [ 3 ] 達成できた  
 [ 2 ] どちらともいえない  
 [ 1 ] 達成できなかった

上記以外で理解できなかったこと、もう一度説明・演習が必要なこと、授業への要望その他何でも

# 英 語 力 の 目 標

1. これは、現時点での「英語力」を4つの分野（「聞く」「話す」「読む」「書く」）ごとに、9つのレベルで診断するものです。
2. 現在の英語力を用いて何ができるのかを明らかにし、それをもとに自分の目標を持ち、次のレベルへと英語力を高めるための1つの材料です。

## 各レベルと英語力の目安

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	英検・語彙数	入試問題
レ 1	習った単語を正しく聞き分ける	見たものを習った単語レベルで描写する	習った単語を読んで理解する	習った単語を正確に書き写す	200語	高 校 入 試 セ ン タ ル 二 次 標 準 次 難 関
レ 2	習った短い文を聞き分けて理解する	見たものを簡単に述べ、決まり文句が使える	習った単語を音読でき、短い文を理解する	短い文を正確に書き写す	5級 600語	
レ 3	簡単なあいさつや自己紹介などを聞き取る	簡単な自己紹介や日常のあいさつをする	短い文章の要点を読み取り、辞書などを用いる	正しい文字の使い方がわかり、簡単な手紙を書く	4級 1300語	
レ 4	道案内や日常に関する伝言を聞き取る	他人の紹介をし、簡単な道案内をする	簡単な手紙や掲示板、説明書を読み取る	簡単な日記を書き、日常の描写をする	3級 2100語	
レ 5	日常的なことについての電話の内容を聞き取る	自分のことを電話で伝え、簡単な報告をする	簡単な新聞記事やパンフレットを読んで理解する	日常の体験や予定などを簡単に説明する	準2級 3600語	
レ 6	やや抽象的な説明や事務的な電話内容を聞き取る	一般的事柄について説明し、簡単な通訳をする	簡単な小説や興味ある分野の記事を読み取る	趣味などの事柄を説明的にやや長い文章で書く	2級 5100語	
レ 7	テレビ・ラジオなど放送・報道の概要を理解する	社会的出来事の概要を説明し、幅広く通訳をする	幅広く読書し、新聞や辞典の情報を的確に捉える	会議の記録をとり、自分の見解の概要を書き表す	準1級 7500語	
レ 8	各種放送や演説・討議などを十分理解する	通訳や電話での折衝をし、報道内容を的確に伝える	新聞、雑誌、一般文献など十分に理解する	自分の意思、見解や演説原稿を十分に書き表す	1級 1万~1.5万	
レ 9	あらゆる英語を十分に聞いて理解する	あらゆる場面で正確かつ適切に話す	専門書を含め英語を読むことに不自由しない	適切な文体や専門用語を駆使して書く	1.5万~	

\* 中学校高学年段階ではレベル3～4を、高校1～2年ではレベル4～5を、高校3年生段階では5～6を目標に努力してみましょう。



PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

table / breakfast / walk / swim / sunny / beautiful

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

You have a nice bike, Judy. -- Thanks, but it's my sister's.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Karen goes to a school near her house. Her mother and grandmother went to the same school, too.  
The buildings are old, but she likes her school.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Jenny is a high school student. She loves music. She usually walks to school with her friends. On Wednesday, she rides her bike to school because she has to get home quickly. She has a piano lesson on that day.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

You have reached Symphony Records. Our store is closed now for the New Year holiday, but we'll be re-opening on January 11. Our store is open from 10 a.m. to 10 p.m. every day except Wednesdays. Be sure to stop by and check out the city's best collection of classical music. Thanks for calling.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

For people living in cities, the subway is one of the best ways to travel quickly and cheaply. The first subway line in the world was opened in London in 1863. It was called the "Underground," and its first line was only 6 kilometers long. Today, the London Underground is about 360 kilometers long. This makes it one of the longest subway systems in the world.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

**Comparing Notes**

Human beings are certainly unique among the various species of life on earth, but scientists, time and again, are discovering what have been considered human characteristics in the animal world. Take, for example, the appreciation of music. Researchers have uncovered sophisticated rules in the songs of a variety of birds that are similar to the principles we apply to our own musical compositions. And the humpback whale, like many human composers, will select a theme, expand on the theme, then return to the original theme with minor variations.

Some would argue that animal music is simply an instinct and therefore decidedly different from its human counterpart. But recent research on the human brain suggests that our own love of music may also be instinctive. If so, then the only fundamental difference between animal music and human music is the instruments that are used.

## PART 2 「話すこと」

### LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。  
「誕生日」「切符」「走る」

### LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。

"How are you?" -- "\_\_\_\_\_."  
"\_\_\_\_\_?" -- "I'm from Iwate, Japan."

### LEVEL 3

次のことについて英語で自己紹介をしなさい。

「名前」「年齢」「好きな教科」「趣味」「家族構成」「通学方法」  
\*かっこ内から2つ以上

### LEVEL 4

郵便局へ行く道をたずねられたとき、英語で次のような道案内をしなさい。

「通りをまっすぐ行って、最初の角を左に曲がれば右手に茶色の建物が見えるので、それが郵便局である」

### LEVEL 5

次の内容を英語で家族（親）に伝えなさい。

「今度の日曜日に、友人3人と一緒に電車で繁華街に行って映画を見て、その後で本屋に寄って欲しい本を買ってから、夕方には帰宅する」

### LEVEL 6

次の内容を英語で友人に伝えなさい。

「列車の出発が、大雪のために1時間ほど遅れる見込みであり、約束の時間に遅れてしまうこと。予定通りに運転が再開されたら、それに乗って、駅からはタクシーでできるだけ早く会いに行くつもりであること」

### LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度で英語のスピーチを行いなさい。

「インターネットの利用価値について」  
「家庭における家族の仕事分担について」



## PART 3 「読むこと」

### LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

people / little / tomorrow / station

### LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Let's play badminton after school today.
- Mr. Brown is a doctor. He works in that hospital.

### LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

#### *Hiroshi's Happy Day*

On Sunday, Hiroshi and his father went shopping. They wanted to buy a birthday present for Hiroshi's mother. They took a bus and went to a department store.

When they got off the bus, Hiroshi saw a woman. She had a map in her hand and was looking at it. Hiroshi thought, "Maybe she's lost." Hiroshi's father spoke to the woman in Japanese, but she said, "I'm sorry, I can't speak Japanese. I'm from Australia."

Hiroshi wanted to help her and said, "Do you need any help? I can speak some English." She was very happy and said, "Thank you. I have to meet a friend at Tokyo Station. But I don't know the way there."

Hiroshi and his father walked with the woman to Tokyo Station. At the station, the woman took a picture of Hiroshi and his father. She said, "You're very kind." Hiroshi was happy because he helped her.

### LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

#### *I Can Do Anything*

Curtis Pride was born in Washington, D.C. on December 17, 1968. When Curtis was seventeen months old, his doctor told his mother that Curtis could hear almost nothing. In 1971, his family moved to Silver Spring, Maryland. Curtis started a special school program there. For three years, he took classes to help his speaking. Then he started taking classes with students who could hear. Some students didn't like Curtis because he was different. Curtis's mother told him that he should not stop doing the things he wanted to do. He never forgot what she said.

In high school, Curtis was the only student that couldn't hear. He studies very hard and his teachers said he was a great student. He loved sports and played soccer, basketball, and baseball. For all those sports, he made new records for his high school.

At college, he studies business, and in the summers he played baseball with the New York Mets, a major league baseball team. Since he graduated in 1990, Curtis has played for four other major league teams. He is the first major league baseball player who can't hear since 1945.

Every year, Curtis Pride receives hundreds of letters from young men and women with disabilities. With the help of his family, he answers all the letters he gets. For the past few years he has also worked with disabled students. Curtis says that having a disability teaches him never to give up. He tells this to all the people he meets.

**LEVEL 5**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

***Jim Thompson***

Jim Thompson, born in the United States in 1906, was known as the "Thai Silk King." Thompson became famous for helping to make Thai silk popular all over the world. Thompson also had a wonderful collection of traditional Thai art that can now be seen at the Jim Thompson House in Bangkok. However, he is best remembered for the mysterious way in which he disappeared.

Over the course of his life, Thompson did several different jobs. He worked as an architect in the United States, but when World War II began he joined the army and went to Thailand. After the war, Thompson decided to stay in Thailand. He had an unsuccessful experience as a hotel manager, and then decided to work in the silk industry. This made him a rich and successful businessman. The high quality of the fabrics he sold became popular overseas, and his silks were even bought by the Queen of Thailand and the Queen of England.

In March 1967, during a visit to Malaysia, Thompson suddenly disappeared in the jungle. He went out for a walk by himself and was never seen again. There was a huge search to find him, but even now no one knows what really happened to Thompson. Some people believe he was shot, while others think he was hit by a truck or that he simply got sick and died in the jungle.

Although his disappearance remains a mystery, interest in Jim Thompson has continued to grow over the years. Stories about him have appeared in magazines, newspapers, and books, and a TV series is being made about his life. Even today, people in Bangkok still ask each other, "What do you think really happened to Jim Thompson?"

**LEVEL 6**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

***The Cutting Edge***

Archaeologists are scholars who study the lives of people in the past. Instead of relying on written records, they often dig in the ground to find clues about how people used to live. For several years, a team of archaeologists from China and the United States has been digging in a large cave in southern China that has been used by human beings for up to 300,000 years. The team has found the remains of many people and large animals in the cave, including a huge collection of 200,000-year-old animal teeth. When archaeologists find animal remains in a place where humans have lived, they are usually leg bones. This is because people removed the legs from dead animals and carried them back to their homes for food. However, in the Chinese cave, about 30 percent of the animal remains were teeth.

The teeth were from various animals, such as rhinoceroses and ancient elephant-like animals called stegodons. According to one of the archaeologists, Lynne Schepartz of the University of Cincinnati, the discovery of the teeth of such animals in the cave came as a surprise. This is because these animals preferred to live in the open, and so it is extremely unlikely that they entered the cave on their own. How, then, did their teeth get into the cave? After examining them, Schepartz and the other members of the team came to the conclusion that the teeth were probably taken back to the cave and used as tools by the ancient people who lived there.

Ancient people had to make tools with whatever materials they could find. They often used stones to make tools from other materials, but the stones in the area around the cave are all rather soft and so were not suitable for this purpose. The people who lived in the cave discovered that when the teeth of rhinoceroses and stegodons broke apart, a hard, sharp edge was created. The archaeologists believe that these teeth were then used as cutting tools, and also to make other tools from materials such as bamboo. This is the first time that archaeologists have found such clear evidence that ancient people used large animal teeth in this way.

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

*Shoplifting -- Crime to Go*

People often begin shoplifting as much for the thrill of it as for gain or out of malice, but that's not what makes it unique among crimes. Shoplifting stands out because it can be perpetrated with equal ease by 6-year-old boys and 80-year-old grandmothers. Shoplifting is also a crime that has proven very difficult to combat. It takes place 800,000 times a day in the U.S. alone -- with targets ranging from inexpensive batteries and candy bars to valuable jewelry -- and costs retailers \$13 billion a year. Interestingly, shoplifting is an unintentional indicator of the state of the economy. In times of recession, with more people out of work and stores hiring fewer salesclerk to watch over their stores, shoplifting increases.

Shoplifting is a crime that arose out of the nineteenth century's mass-merchandising culture. "Consumer culture manipulates the senses of the shoppers, seduces them, weakening their ability to resist temptation," says Lisa Tiersten, cultural historian at Bernard College. As mass merchandising became increasingly popular in the late 1800s, some housewives found it difficult to resist stealing goods from stores brimming with attractive products. The rigid Victorian morality didn't know how to categorize these otherwise respectable women, so doctors invented a new disease called "Kleptomania," impulsive behavior over which the shoplifter was believed to have little control.

Many experts argue now that the majority of habitual perpetrators suffer from addictive-compulsive disorder, a psychological term used to describe people who find so much gratification in pocketing stolen goods that they have difficulty stopping, despite the obvious risks. The remainder of shoplifters fall into a number of categories -- professional criminals, drug addicts who desperately need money to maintain their habit, and thrill seekers, who are often teenagers. Other experts, including many of those responsible for security, disagree with the theory that shoplifters are somehow victims. They see the cause of shoplifting as nothing more than greed, self-gratification, and the pursuit of cheap thrills. This group of experts feels that shoplifters should be prosecuted to the full extent of the law, believing that tougher measures are the only way to reduce the number of crimes.

Whatever the reasons behind shoplifting, shop owners spend small fortunes on technology to reduce product loss. Sensors tags are common sight throughout larger retail stores. Despite all these efforts, however, shop owners are also battling an enemy within: the majority of shoplifting isn't perpetrated by shop customers, but by store employees. Whether the motivation for this type of stealing is greed or vindictiveness against employees, such theft is much more difficult to catch.

## PART 4 「書くこと」

### LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。  
picture / Thursday / watch
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「ケン(Ken)は5歳です」

### LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。  
How much is this book? -- It's 500 yen.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
・「ミキ(Miki)は日本に住んでいます」

### LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「私は毎朝6時に起きます。毎日自転車で学校に行きます」
  - ・「読書は好きですか」「はい。毎月5冊本を読みます」

### LEVEL 4

- 次のうちの1つについて、3～5文の英語で書きなさい(制限時間10分)。
- ・好きな季節とその理由
  - ・嫌いな教科とその理由

### LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・英語を勉強している理由として、世界中の人々と話をし、やがては世界平和のために働きたいということを伝える

### LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・一般の読者に対して、健康の大切さを実感した自分の日常の中での経験を伝え、健康維持のために日頃から心がけていることを伝える

### LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・中高生に対し、テレビの功罪について、相手を意識し納得させるような内容で、必要に応じて提言を加える

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

window / station / August

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Can you play the piano, Tim? -- No, I can't. But I can play the guitar.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Ken got a bike for his birthday. He's happy because now he can go to many places. Every weekend he goes to his favorite places by bike.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Mike became sick after playing soccer in the rain on Thursday. On Friday his class went on a school trip to the mountains, but he couldn't go. He stayed in bed all day.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

One of the most famous and beautiful buildings in India is the Taj Mahal. It was built by an emperor after his wife died. He loved her very much and wanted to build something so people would remember her. It took 22 years to build the Taj Mahal. Now it is a world-famous symbol of love.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

The most famous Spanish art museum is the Prado Museum in Madrid. Many of the Prado's paintings were originally owned by the Spanish royal family. In addition to Spanish paintings, the museum has famous works from Italy, France, and other European countries. The Prado has so much artwork that it can only display about 10 percent of it. The rest is stored in special buildings.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

***It's Your Money***

Welcome to Bob Sterling's *It's Your Money*. According to a recent survey, one-third of you parents out there do not have a college savings program for your children. Wake up, folks. College is expensive. In fact, since the early 1980s, college expenses have risen faster than medical costs. So here are two words every parent needs to know: financial aid.

Financial aid for students today comes mostly from low-interest government loans. With these loans, students pay no interest during the time they're in college. All but the richest students need to borrow money, but they can feel confident that there's no better investment than their own future. And parents -- this means you -- should be putting money away for their college-bound kids, even if it's just \$20 a month.

Recent tax-law changes have made savings plans more attractive than ever. More on that tomorrow. Until then, this is Bob Sterling, "It's your money."

## PART 2 「話すこと」

### LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。  
「辞書」「泳ぐ」「美しい」

### LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。  
" \_\_\_\_\_ ?" -- "I'm 165 cm tall."  
"Nice to meet you." -- " \_\_\_\_\_ ."

### LEVEL 3

自分の住んでいる地域について、次の内容のうち2つ以上を英語で伝えなさい。  
「冬は雪が多い」「春にたくさん桜が咲く」「海が近い」「町中を大きな川が流れている」  
「美しい山が見える」「住宅地でにぎやか」「古いお寺がある」「大きな工場がある」

### LEVEL 4

ALTに、海外の姉妹校から来ることになった高校生について、次の内容を紹介しなさい。  
「名前はサラ。出身はオーストラリアで、17歳。2月の第2週から、半月の予定で日本に滞在し、自分の家にホームステイをする。」

### LEVEL 5

次の内容を、風邪で欠席している留学生の友人に電話で伝えなさい。  
「明日の午前の授業変更はないが、6校時の英語が体育に変更になったので運動着を忘れずに持ってくるように。放課後には演劇部の集会を行う。」

### LEVEL 6

買い物の最中に困っている外国人に、店員が言った次の内容の概要を通訳しなさい。  
「当店ではアメリカドルを使うことはできないが、カードはほとんどの種類が使用可能である。値段は5%の税込みであり、すべての商品は品質保証がされていて、安心して購入いただける。」

### LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度の英語のスピーチを行いなさい。  
「宇宙ステーションで暮らしてみたいですか？」  
「10年後の日本はどうなっていると思いますか？」

## PART 3 「読むこと」

### LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

park / glass / computer / throw

### LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Bob gets up very early every morning. He goes to school by bike.
- Here's a birthday present for you. -- Thank you very much.

### LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)

#### *A Present for Tom*

Yesterday was Tom's birthday. His family had a party for him. His mother cooked a special dinner. After dinner, his brother played the guitar and his sister sang a song. Then his father gave him a present. It was a big green box. He opened it and found another box in it. It was a red box. He opened it and saw a third box. This one was blue.

Everyone laughed when he opened the boxes. There were six of them! In the last one, he found a piece of paper. It said, "Go to your room. Look under your bed. You will see three bags. Your birthday present is in one of them."

Tom went into his room. Then, he found three bags under his bed and began opening them. He had to open all of them before he saw his father's present -- a pair of basketball shoes. He was so happy because he wanted them very much.

### LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)

#### *Lucky Lindy*

Charles Lindbergh was born on a farm in 1902. When he was young, he was interested in machines. At 18, he went to college and studied engineering, but he wanted to fly airplanes instead of studying. So, he left college after two years, learned to fly, and then joined the army to fly planes. After that, he started working for a company that sent mail by plane between St. Louis and Chicago.

In 1926, Lindbergh became excited when he heard some good news. A rich man said he would give a prize of \$25,000 to the first man to fly alone across the Atlantic Ocean. Lindbergh needed a plane. Some business people from St. Louis gave him the money to make the plane. He called this plane Spirit of St. Louis.

Lindbergh left New York City in his airplane on the morning of May 20, 1927. He arrived in Paris at night the next day. He flew more than 5,800 km in about 34 hours. People around the world read about his exciting flight in the newspapers. He was called "Lucky Lindy" and he became a hero.

Lindbergh wrote a book about his flight across the Atlantic. He named his book *We* because he talked about himself and his airplane. Soon, Lindbergh flew to many cities around America to teach people about airplanes and flying. Later, he flew to and stayed in many countries all over the world, so he became interested in the people and cultures there. Now, many people around the world know about him and his famous flight.



**LEVEL 5**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

***Two-for-one***

In Peru all children are required to attend elementary school. However, in reality 23 percent of students stop going to school before the fifth grade. This is often because they find the classes too difficult. Many of the children come from poor families that cannot even afford to buy books and newspapers. Sometimes their parents themselves cannot read and write. This means that the children have little chance at home to learn the basic skills necessary to understand their classes.

To help these children stay in school, UNICEF is working with the Peruvian government to carry out a new program called Two-for-One. Under this program, first- and second-grade students are taught by teenage volunteers from poor families who are doing badly at school. The children meet in groups with the volunteers outside of school hours, and each group selects a study project to work on for eight weeks. These projects help children improve their reading and writing ability while developing social skills through group work. The volunteers try to make the experience fun so that the children will become more interested in learning.

The Two-for-One program only started a few years ago, but it has proved very successful in helping poor children to do better at school. After just eight weeks in the program, children score on average 30 percent higher on school tests. In addition, more than 80 percent of the children who take the program stay in school. In fact, the program has been so successful that there are now more than 2,000 Two-for-One groups active in Peru. The Peruvian government hopes to see this number grow even more in the future.

**LEVEL 6**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

***Spider Silk***

Spider silk is the name given to the fine thread that spiders produce to make the webs in which they live. For many years, scientists have been impressed by spider silk's amazing qualities. Although it is 10 times thinner than human hair, it is five times stronger than steel of the same thickness. If such a strong, light thread could be produced in large quantities, it would provide many benefits for humans. Unfortunately, spiders usually attack each other if they are kept close together. For this reason, raising large numbers of spiders together to produce thread has proved very difficult.

As a result, scientists have turned their attention to producing spider silk by other methods. The proteins that make up spider silk were first discovered more than 10 years ago. Spider silk consists of two different proteins that the spider produces in its body. However, finding a method to produce these proteins in a laboratory has not been easy. Recently, though, scientists have made remarkable progress toward solving this problem by using genetic engineering. For example, a group of scientists in Quebec, Canada, removed from spiders the genes in the cells of female goats, the scientists succeeded in raising goats that can produce milk containing the proteins. They then used the proteins in the goats' milk to produce a thread very similar to that which spiders produce naturally.

Based on these results and those of other experiments, scientists now predict that man-made spider silk will soon become available for commercial use. Besides being light and strong, the new thread has other advantages. Since it is based on a natural product, it can be made without using dangerous chemicals. Moreover, the thread itself does no harm to the environment. Unlike most man-made materials, after spider silk has been thrown away, it disappears naturally over time. In the future, it may be used to make such things as fishing nets, clothing, and medical materials. There are still many problems to be overcome before spider silk can be produced cheaply, but this amazing thread promises to be useful in a wide variety of fields.

LEVEL 7
---------

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

*Entrancing Hypnosis*

Hypnosis is receiving attention from a growing number of believers and doubters alike. Advocates consider it the ideal remedy for everything from cigarette smoking to labor pains. Skeptics see it as a purposeless pursuit for the naive. But research does indicate that hypnosis offers certain benefits. Scientific studies show that it can be an effective technique for reducing addictions, minor phobias, and attention deficit disorder. Proponents say it is not the hypnotic trance itself that alleviates these conditions, but rather that the suggestions offered to subjects during hypnosis help to alter their behavior and offer relief.

Can anybody be hypnotized? Researchers suggest that the answer is a qualified yes. In fact, they say, it is not a matter of whether a person can be hypnotized, but rather how deeply into a trance they can go. Studies at Stanford University, Virginia Tech, and the University of Massachusetts uncovered a possible link between hypnosis and certain neurological factors. In what is referred to as the "eye-roll" test, measurements were taken to see how far subjects could roll back their eyes when lowering their lids, the ability to roll their eyes correlating strongly with their level of hypnotizability.

Personality characteristics also play a role. The most easily hypnotized subjects are those referred to by experts as "fantasizers." These people tend to be daydreamers and can effectively block out their surroundings. The most extreme fantasizers are those who regularly incorporate daydreams into their routine activities. Fantasizers also tend to have very clear and early childhood memories, and are likely to have had make-believe friends with whom they played. Often, fantasizers had parents who not only encouraged them to engage in imaginary play, but also used imagination tactics to discipline them instead of using a more conventional system of rules and punishments. One fantasizer recalled an incident from childhood where she pushed a little girl to the ground and took her doll. Her mother, instead of punishing her, asked her to imagine how the girl felt. The fantasizer was so clearly able to feel the other child's distress that she never behaved that way again.

In reality, only about 5% of people are believed to be true fantasizers. If you're a daydreamer and you had an imaginary childhood friend, you may be one of these rare ideal candidates for hypnosis. But having even one of the characteristics of a true fantasizer is reason enough to feel lucky. Any such person is likely well suited for the healing power of hypnotherapy.

## PART 4 「書くこと」

### LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。  
present / baseball / homework
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「私は兄が二人います」

### LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。  
Welcome to Japan. Please enjoy your stay.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「公園でテニスをしました」

### LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「ゆうべは家で妹と2時間テレビを見ました」
  - ・「来週の土曜日友達と買い物に行きます」

### LEVEL 4

- 次の内容を、3～5文程度で英語の日記を書きなさい(制限時間10分)。
- ・朝雨が降っていたのでバスで学校に行った。数学の授業で先生がたくさん楽しい話をしておもしろかった。午後には雨もやんだので友達と歩いて帰ってきたが、学校に傘を忘れてきてしまった。

### LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・「文化祭」について、期日、内容、見所などをパンフレットで来訪者に伝えなさい。

### LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・日常生活の中で、「伝統」の良さについて感じたことを挙げながら、これからも残していった方がよいと思われるものについて述べなさい。

### LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・クローンについて簡単に説明し、これからの方向性や我々に与える影響などについて自分が思うところを伝えなさい。

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

chair / lunch / remember / yesterday

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

When did you go to America? -- I went there in March.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Kimiko has an American pen pal. Her name is Sally. Last month, Sally visited Japan. Kimiko took her to Kyoto. Last week, Kimiko received a thank-you letter from Sally.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Welcome to the Red River Department Store. Today we have a special magic show for all the children here. The show will start at 2:00 in the children's bookstore. It's free and everyone is welcome.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Snowboarding has become very popular recently. But the idea of snowboarding is not new. In 1929 an American named Jack Burchett made the first snowboard from a simple piece of wood. Later, other people improved the design of snowboards. The sport soon spread around the world, and in 1982 the first international snowboard race was held.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

A popular book in many countries is The Guinness Book of World Records. This book has been translated into many different languages and is sold throughout the world. The Guinness Book offers information about amazing and unusual people, places, and things, such as the world's tallest man. The book was started by a famous Irish beer company in order to give people in pubs interesting topics to talk about.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

*Psychology Goes to the Dogs*

Hi. Pet psychologist Jonathan Fox here with some tips for training your dog. Today's key words: exercise, affection, and domination.

When exercising my dogs, I go on regular excursions through the mountains near Los Angeles. Fresh air for me, and for the dogs, a chance to explore and forage in a natural environment. City parks? No thanks.

Next, affection. Stroking is important for bonding, but the best way to show affection is to provide the things that a dog really needs -- namely food and water.

Now, the bit I like best: domination. Just kidding, but it is important to show the dog who's boss. And the best way is to act like the dog-pack leader. If a dog steps out of line with me, I nip at its neck with my fingers, just like a lead dog would with its teeth. No need to keep them ties up.

Alright, pet lovers. That's it for now. See you next time.

## PART 2 「話すこと」

### LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。  
「14」「1月」「勉強する」

### LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。  
"I had some milk for breakfast. How about you?" -- "\_\_\_\_\_."  
"What day is it today?" -- "\_\_\_\_\_."

### LEVEL 3

自分の学校を訪れた、海外からの視察者に、次の点について伝えなさい。  
「自分の学校はとても古くて伝統がある」  
「生徒はみんな勉強と部活動を一生懸命やっている」

### LEVEL 4

交換留学生としてカナダから来ているクラスメートに、次の依頼をしなさい。  
「来週末に隣町に住む友人が遊びに来るが、あなたに会いたがっているので家に来てもらえないか」

### LEVEL 5

次の内容を、友人の留守番電話に入れなさい。  
「明日の予定を聞きたくて電話した。自分は映画を見に行くつもりである。このメッセージを聞いたら、メールを送るか、6時から8時の間に電話がほしい。」

### LEVEL 6

海外旅行の際に宿泊したホテルのフロント係に、次の内容の問い合わせをしなさい。  
「たった今、部屋のドアを開けようとしたら、カードキーが使えなくなっていたので、なぜなのか知りたい。もしこのようなことがこれからもあるのならば、事前に、電話や掲示で知らせて欲しい。」

### LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度の英語のスピーチを行いなさい。  
「ボランティア活動の本質について」  
「携帯電話の使用マナーについて」

## PART 3 「読むこと」

### LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

always / computer / kitchen / November

### LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Excuse me. May I ask you a favor?
- My favorite subject is math. It is very interesting.

### LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

#### *The Tickets*

Daisuke is a junior high school student from Nagoya. He is staying at Mr. White's home in California this summer. Mr. White worked with Daisuke's father, and they are good friends.

Daisuke often talks about sports with Mr. White. Last Friday night, when Mr. White came from work home, he gave an envelope to Daisuke. "Here's something for you," Mr. White said. Daisuke opened it and said, "They're tickets!" "That's right," Mr. White said, "I got two tickets for the baseball tomorrow night!"

The next day, Mr. White took Daisuke to his first major league baseball game. Daisuke was very excited because there were so many people at the game. When he saw his favorite baseball player, Daisuke thought, "I want to be a baseball player, too."

After Daisuke came back to Mr. White's home, he looked at the ticket and thought, "I had a great time today."

### LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

#### *The Lady with the Lamp*

Florence Nightingale, a British woman, was born in Italy in 1820 and grew up in Britain. Her family was rich and had several large houses in different parts of Britain. Florence didn't go to school, but instead, her father was her teacher at home.

Florence's parents hoped that she would marry and become a good wife and mother. But, at the age of 17, she had a dream about helping other people. Some years later, she decided to become a nurse. Her parents were angry because they thought it was too hard for their daughter. But Florence finally began working as a nurse in 1853 in a small London hospital. She was 33.

Florence enjoyed her job and worked hard. At that time, Britain was in a war. So, in 1854, she traveled to Turkey with 38 other nurses to take care of sick and injured soldiers. She was very kind and friendly to the soldiers, so she soon became very popular. Every night she worked very late. She walked around the hospital with a lamp. So the men called her "The Lady with the Lamp."

Her story later became famous all over Britain and changed many people's ideas about nurses. Before Florence began working as a nurse, hospitals were dirty, crowded places. She bought beds and clothes for the sick people, and started training nurses. With Florence's help, hospitals became better places for everyone. After hearing about Florence Nightingale, many young women wanted to become nurses, too.

**LEVEL 5**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

***A Taste for Sharks***

Sharks have been seen as especially dangerous by human beings for a long time. Strangely, however, people also find them attractive. For example, sharks have become one of the biggest attractions at aquariums and museums. At one California aquarium, the number of visitors increased greatly when the aquarium bought two dangerous-looking sharks. Also, the movie *Jaws* -- about a giant shark that attacks people -- was the first film to make a profit of over \$100 million. Television programs about sharks are also much more popular than programs about other animals.

Recently, sharks have become popular in other ways, too. For example, these days many people are eating shark meat in restaurants. Also, the skin of sharks is used to make leather, their teeth are used to make jewelry, and oil from sharks is being used for medicine and skin-care products. For all these reasons, fishermen now catch more and more sharks every year. Sharks have become big business in a number of different ways.

Many experts are worried, however, that the large number of sharks being caught means that their future may be in danger. Over 100 million sharks are being killed every year, and some kinds of sharks may even disappear completely. The survival of sharks is very important for several reasons. In particular, a large decrease in the number of sharks will damage the balance between different kinds of fish in the sea. Sharks eat small fish, so they help keep the numbers of fish at ideal levels. It seems these days that it is human beings who are dangerous to sharks than the other way around.

**LEVEL 6**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

***Traffic Trouble***

Over the past few decades, there has been a steady increase in the number of cars on the road. As a result, large cities everywhere have begun to face a common problem: more and bigger traffic jams. In central London, for example, the average speed for cars was recently said to be less than 13 kilometers per hour -- slower than that of the horse-drawn carts used 100 years ago! Traffic congestion is both a waste of time and fuel, and it also produces a large amount of air pollution.

For these reasons, cities around the world have been trying to find ways to ease such congestion. Some have tried providing free buses, while others have limited the amount of parking space available. Unfortunately, these approaches have had little effect. Experts have said for many years that the best way to prevent traffic jams is to charge drivers a fee for entering the city center. This kind of plan has always been very strongly opposed by drivers. Now, however, the Mayor of London, Ken Livingston, has introduced just such a scheme.

Under the new system, drivers in central London between 7 a.m. and 6:30 p.m. must pay a daily fee of five pounds. This fee can be paid in advance or on the day of travel. When a driver pays, the car's number plate is entered into a computer database. Over 700 cameras have been set up around the city to film the number plates of cars and check them against the database. Drivers that do not register by the end of the day are required to pay a fine. Taxis and buses do not have to pay the fee, while cars belonging to residents of the city center are given a 90 percent discount.

Many people have criticized the system. Some say that it is unfair to people with smaller incomes, and others argue that it is too complicated to work properly. However, since it was introduced in February 2003, it has worked far better than most people expected. Indeed, if it continues to operate so successfully, we can be sure that in the future many other cities will follow London's example and introduce such fees.



LEVEL 7
---------

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

*Sea Horses*

There's something odd about sea horses. They have been described as "a fish that looks like a horse, with a tail like a monkey, a snout like an anteater, and pouch like a kangaroo." But the strangeness of these tiny undersea creatures is more than skin-deep. For starters, sea horses do not have teeth or a stomach. Their prey -- shrimp, small fish, and invertebrates -- must be sucked in through the snout and digested whole. Sea horses are most peculiar, though, in the area of reproduction. Peculiar may be an understatement: at mating time, it is the male that becomes pregnant. The female plants eggs into a pouch on the male's tail, where he fertilizes them. The male then provides the unborn young with protection, nutrients, and oxygen for up to six weeks before giving birth to as many as 1,500 fully formed and independent sea horses.

Fifteen hundred sounds like a lot, but scientists estimate that an average of just two from each brood survive to maturity -- just enough to keep the population stable. Nevertheless, sea horse numbers are on the decline, partly due to degradation of habitats, but primarily because of the global trade in these creatures that has grown up in recent years. Sea horses are used in traditional medicine, as souvenirs, and as aquarium stock, and total consumption is more than 20 million per year.

The scale of the problem prompted the establishment of Project Sea horse. Launched in 1996 by Dr. Amanda Vincent, the world's foremost sea horse expert, the project takes an enlightened approach to the conservation and management of sea horse populations and their habitats. "No matter how fervent your admiration for any environment, if you want to succeed, you need everybody involved," says Vincent. Project Sea horse attempts to set up partnerships with the traditional-medicine community, aquarium operators, policy-makers, and fisheries departments. Sea horse fishers are being provided with management skills in a bid to restore wild-sea horse stocks. Under a trial program, the fishers place any pregnant males they catch in underwater cages until their young are born. The fathers are then sold, allowing the fishers to maintain their income and the sea horse population to stabilize. "If conservation isn't economically sustainable for a community," says Vincent, "it's not going to work."

Sea horses may represent the ideal vehicle for promoting new approaches to conservation. They live in some of the world's most important and most threatened habitats. But more importantly, their peculiar appearance makes them instantly recognizable, which in turn makes it easier for people to embrace their cause. In the end, it may be the oddness of sea horses that saves them from an increasingly ordinary fate: extinction.

## PART 4 「書くこと」

### LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。  
message / scientist / together
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「今日はとてもいい天気です」

### LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。  
Could you tell me the way to the station?
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「昨日横浜に買い物に行きました」

### LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「普段は6時頃帰宅し、夕食は7時頃に家族と一緒に食べます」
  - ・「来年の夏に、熊本の叔父の家に行って、近くの海で釣りがしたい」

### LEVEL 4

- 次の内容を、海外の友達に3～5文程度で英語のメールを書きなさい(制限時間10分)。  
「毎日寒い日が続いている。今冬休みで、明日家族でスキーに行く予定である。もうすぐ新年を迎えるが、そちらではどんなことをして過ごすのか知りたい。」

### LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・ホームステイの体験について、最初の不安、ホストファミリーの親切な対応、楽しい日々、学校での友人との交流、帰国時の別れの悲しさ、などを時間の流れに従って

### LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・先週見に行った映画について、俳優の演技がすばらしく、ストーリー展開も意外性があり、せりふ回しもすぐれていて楽しめた。しかし、音楽の効果が今ひとつであった、という趣旨の感想

### LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・草の根レベルでの有意義な国際理解と国際交流について、実体験を交えながら、あるべき姿についての提言を行いなさい

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

train / afternoon / need / computer / white

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Are you doing your homework, Ken? -- No. I'm writing a letter to my friend.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Andy likes art. He often draws pictures of flowers, and he also likes drawing animals. Tomorrow, he's going to the zoo with his mother. He will draw the elephants there.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Koji wanted to buy the new book by his favorite writer, so he went to the bookstore. But the book wasn't there. It was sold out. Later, Koji borrowed it from a friend at school.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

The biggest snake in the world is the anaconda. Anacondas live in jungles in South America. Sometimes they grow as long as nine meters. They catch many kinds of animals for food. At night, they usually hide in rivers in order to hunt animals that come to drink water. Anacondas have over 70 babies at a time.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Many people are afraid of bats. However, these animals can be very helpful to humans. For example, bats help farmers by eating a lot of insects that are harmful to fruits and vegetables. One bat can eat about 600 insects in an hour. They also spread the seeds of many useful plants. For these reasons, some people are trying to protect bats and the places where they live.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

**Online Advertising**

The Internet was supposed to be a marketer's dream. While advertisers spend billions of dollars annually on TV, radio, print, and billboards, they get little concrete feedback on the effectiveness of their campaign. The new medium, however, with its ability to record how many people clicked on a webpage containing an advertisement, was supposed to eliminate the uncertainties of traditional advertising.

Nevertheless, online advertising has yet to live up to expectations. Just because a million people saw a website containing a banner advertisement doesn't mean the viewers actually looked at the ad. Unlike TV, where a colorful 30-second ad fills the entire screen, users can choose to ignore the small banner advertisements on the Internet. Until advances in technology enable advertisers to grab the sole attention of Internet users, the effectiveness of online advertising will remain uncertain.

## PART 2 「話すこと」

### LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。  
「歌う」「公園」「赤い」

### LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。  
"Thank you very much for your help." -- " \_\_\_\_\_"  
" \_\_\_\_\_?" -- "My dog is five years old."

### LEVEL 3

自分の家族のことをALTに伝えたい。次の内容を英語で言いなさい。  
「5人家族で、両親と、姉が一人、弟が一人。犬を二匹飼っている」

### LEVEL 4

道に迷っている状況で、次の内容を英語でたずねなさい。  
「X市に行くバスに乗りたいが、一番近いバス停はどこにあるか。着くまでにどれくらい時間がかかるか」

### LEVEL 5

海外旅行から戻ったときに、次の内容を友人に英語で伝えなさい。  
「とても暑くて、毎日海で泳いだ。ショッピングが一番楽しかった。店員の英語が理解できてとてもうれしかった。また行きたい」

### LEVEL 6

海外旅行中に、観光案内所の係員に次の内容を英語でたずねなさい。  
「この町の歴史に興味があるので、そのようなことがわかる博物館に行ってみたい。できれば、公共の乗り物を体験したいがどのような手段があるか。他にもおすすめの観光スポットがあれば紹介して欲しい」

### LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度で英語のスピーチを行いなさい。  
「昔の遊びと今の遊びの違いについて」  
「自動車の利用と交通マナーについて」

## PART 3 「読むこと」

### LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

know / house / speak / Japanese

### LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Bob goes swimming in the sea every summer.
- Look up at the stars in the sky. They are very beautiful.

### LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

#### *Susan's Club at School*

Susan comes from Canada. She is staying with Yumi and her family in Hiroshima. She came to Japan in April this year, and she will go back to Canada next March.

Susan and Yumi are in the same class at junior high school, but they are in different clubs. Yumi is in the volleyball club. She has practice from Monday to Friday and on weekends, too. But Susan only goes to her club on Monday afternoons. She is in the tea ceremony club. She goes there because she wants to learn about Japanese culture. Learning the tea ceremony is very difficult, but her teacher, Mrs. Kato, is kind. Susan likes her.

One day, Mrs. Kato videotaped their tea ceremony practice and gave the tape to Susan. Later, Susan watched the video with Yumi's family at home. Yumi's mother said, "Susan, you're very good." Susan wants to send the video to her family in Canada.

### LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

#### *The Battle of the Oranges*

Every year, a little town in Italy has a very interesting festival. The town is called Ivrea, and its festival is called the Carnival of Ivrea. There are many parades and parties, and people make special food, too. But the most exciting part of the festival is the Battle of the Oranges. For the last three days of the festival, teams of people throw oranges at each other in the streets of the town.

People started the Carnival of Ivrea to remember a battle that happened more than 800 years ago. In 1194, the ruler of the town was a very bad man. One day, the people of Ivrea decided to fight him. They only had stones to throw at the ruler and his soldiers, but the people fought hard and won the battle.

Now the battle is just for fun, so people don't throw stones anymore. Many teams take part in the orange battles, and each one has its own special uniform. Some teams ride on carts which are pulled by horses. The others have to walk, and they throw oranges at the teams on the carts. Thousands of visitors come to see the orange battles, and some even join a team. People who only want to watch have to wear special red hats. If they don't, everyone throws oranges at them, too.

After the festival, there are a lot of oranges to clean up. But the people of Ivrea enjoy their festival and are proud of its long and interesting history

**LEVEL 5**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)

***An Equal Chance***

Over 120 million children in developing countries do not attend school. Most of these are girls. Moreover, almost two-thirds of the 875 million adults worldwide who are unable to read or write are female. One of the main reasons is that it is too expensive for families to send all their children to school. Since in many countries it is considered more important to educate sons than daughters, often the boys go to school while their sisters stay home to help their parents. One of the major goals of the United Nations Children's Fund (UNICEF) is to give girls in developing countries a greater chance of getting an education.

UNICEF success stories are not hard to find. Soda Fall, a young woman from Senegal in West Africa, dreamed of being able to finish school and become a teacher. Thanks to a UNICEF project known as the African Girls' Education Initiative, Soda was able to finish school, and now she is a teacher at a public school in her village. As a teacher, Soda is working to help other girls' dreams come true. Her success has encouraged her own mother to learn how to read and write. Women in Senegal like Soda are also thinking of ways to reduce the amount of household work that girls must do so that they will have more time to attend school.

When girls receive a good education, it can help the whole community. Educated women have a better chance of finding a good job, which can increase economic growth. Such women are also more likely to use their knowledge to be more active within their communities. UNICEF hopes that all children will be able to get a basic education of good quality and that they will use their skills to build a better society.

**LEVEL 6**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)

***Digital Witness***

After a traffic accident, it is often difficult to determine exactly what happened or who was to blame. This is because people who witness an accident often describe it in different ways. In order to solve this problem, a special device has been developed that records information while a vehicle is moving. By using this information, it becomes possible to learn exactly how and why an accident occurred.

This device is actually based on the famous "black boxes" that have been used in airplanes since the 1950s. It consists of a small computer that continuously monitors the speed of the vehicle and other data. When the device senses an unusual movement, such as a sudden stop, it automatically stores the driving data. Thus, if an accident occurs, the data can later be examined to learn more about what happened.

Some devices also include a digital video camera that records the view from the driver's seat. This provides a picture of what the driver sees during an accident. The video evidence can show which person is responsible for the accident, allowing drivers to avoid costly court cases. But such video recordings are not only useful for determining the cause of an accident. They can also help people learn to drive more carefully by showing them the mistakes they have made. For these reasons, some insurance companies even give discounts for vehicles that use this type of device.

Because of their many advantages, the devices are quickly being adopted in several parts of the world. Some bus and truck companies in the United States have started to use them in their vehicles. In London, police cars are being fitted with the devices to encourage police officers to drive more safely. As this new technology becomes more common, experts predict that it will help prevent the accidents that made such devices necessary in the first place.

LEVEL 7
---------

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

*The World's First Volcano Rescue Team*

Nothing can be done to change the geological principles that form volcanoes and cause their eruptions, namely the movement of plates in the earth's crust that sends molten rock rushing to the surface. And not much is known about the forces that cause volcanoes to erupt when they do. In fact, three-fourths of history's worst eruptions, including Mount St. Helens in 1980, have occurred on volcanoes that had long been inactive. Since Mount St. Helens erupted, 30,000 people have been killed and over a million left homeless by volcanic eruptions. The worst was the Nevado del Ruiz volcano in Columbia, which in 1985 sent rivers of mud and ash roaring down its sides, burying more than 25,000 people.

After Nevado del Ruiz, the U.S. Office of Foreign Disaster Assistance began the task of creating a global program to monitor potentially dangerous volcanic activity. The result was the Volcano Disaster Assistance Program (VDAP), the world's first and only rapid-response team aimed at volcanoes. Using portable early-warning instruments developed by the U.S. Geological Survey, VDAP scientists keep a watchful eye on suspicious volcanoes. Their instruments, which weigh only 70 pounds, can be placed at various locations on a volcano to report telltale signs of possible eruptions -- small earthquakes, changes in the amount of sulfur dioxide and carbon dioxide in the air, and minor variations in ground temperature. These signs are imperceptible to the human senses and might otherwise go undetected.

So far, the VDAP has been sent to 15 countries to monitor 19 volcanoes. The team has proven that it can install equipment, monitor crucial signs of an eruption, and use the data to make forecasts with reasonable accuracy -- all within a few days. In 1991, when Mount Pinatubo in the Philippines awakened from its dormancy after more than 500 years, the VDAP was called in, and their sensor equipment indicated a pending eruption. By the time the catastrophic explosion occurred two months later, many residents had been evacuated, and tens of thousands of lives were saved. However, the system is not without imperfections. On the island of Monserrat, the VDAP monitoring system predicted an eruption that failed to occur, and warning signs actually diminished. But then the volcano suddenly exploded two years later, destroying the capital city of Plymouth.

In 1994, Mexican scientists worked together with the VDAP to install Earthworm, the most sophisticated volcano-monitoring system ever. The system uses video cameras connected to the Internet and a new device that monitors "harmonic tremors" -- noises made by moving magma. The subject was enormous: Mexico's magnificent Popocatepetl, the world's most dangerous volcano. Nearly half a million people live directly in its shadow. But Earthworm came through. The teams were able to predict within hours that Popocatepetl was about to blow, and thousands were safely evacuated.



## PART 4 「書くこと」

### LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。  
brother / June / pretty
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「私の父は医者です」

### LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。  
I had two classes this afternoon, English and math.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「きのうは朝6時半に起きました」

### LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「私の学校には約500人の生徒がいます」
  - ・「ケイコさん、どうしてこのカメラがほしいんですか」

### LEVEL 4

- 次のうちの1つについて、3～5文の英語で書きなさい(制限時間10分)。
- ・自分の趣味と、その楽しさ
  - ・好きなスポーツ、嫌いなスポーツ

### LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・自分の学校について、場所、授業、部活動、誇りに思うこと等、海外の友人にあててメールを送る。

### LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・現在コンピュータでできることと、将来可能になるであろうことを予測し、上手にコンピュータとつきあっていく方向性を述べる。

### LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・体験に基づいて、芸術が与える感動について述べ、現在のあるいは将来の人間に対して持つその可能性を展望しなさい。

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

want / water / morning / teacher / room

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Do you like tennis, Mary? -- Yes, I do. I play tennis for two hours every day.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Joe usually gets up late on weekends. But last Sunday, he wanted to go hiking with his friend. So he got up early in the morning.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Good evening, parents. Thank you for coming to the school "Music Night." Tonight, students will play the piano and violin. After the concert, you can buy food and drinks at the counter. Thank you, and enjoy the music!

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Ladies and gentlemen, the 11:45 train for New York City has been canceled because of an accident here at Chicago's Union Station. Passengers who wish to travel to New York City should walk to the bus terminal outside. The next bus to New York City is scheduled to leave from the terminal at 12:15. Thank you.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

California is known for its redwood trees. They grow in many of the large parks there. In the past, they were often used to make furniture. Redwood trees are some of the longest-living trees in the world. On average, they live to be 600 years old, but some live as long as 2,000 years. Redwoods are also the world's tallest trees.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

***Emergency Call Controversy***

Each year in the U.S., millions of 911 calls are made from cell phones. But while calls made from regular phones can immediately be traced to an exact address, mobile-phone calls cannot.

A new technology called Enhanced 911, or "E911," may soon remedy the situation. E911 uses computer chips and a network of satellites to pinpoint accurately a cell-phone user's longitude and latitude. The Federal Communications Commission has ruled that all cell phones be equipped with the technology by 2006.

E911 would offer a variety of other services as well. A motorist could use the system to find the closest gas station, for instance. But the technology worries critics. They believe that E911 technology could be used to secretly determine a person's location, as in the case of an employer tracking the activity of an employee. Ultimately, they claim, there would be little to prevent the monitoring of unsuspecting cell-phone users.

## PART 2 「話すこと」

### LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。

「冬」「帽子」「古い」

### LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。

"What time do you go to school?" -- "\_\_\_\_\_."

"\_\_\_\_\_?" -- "The book is 1,000 yen."

### LEVEL 3

自分の学校生活について、次のうちの2つ以上を英語で伝えなさい。

「学校(授業)は8時半に始まる」「毎日6教科勉強する」「放課後は毎日部活動をする」

「好きな教科は体育(数学、英語)」「先生はみんな親切」「友達と楽しく遊ぶ」

### LEVEL 4

自分の友達について、以下の内容を留学生の友人に伝えなさい。

「毎朝友人二人と歩いて学校に来る。同じクラスで、三人ともテニス部。休日にはみんなで買い物に出かける」

### LEVEL 5

次の内容を、ALTに伝えなさい。

「次の日曜日に、音楽部のコンサートがある。開演は午後3時で、入場料は300円。是非来て、自分たちの歌を楽しんで欲しい」

### LEVEL 6

交換留学生としてやってきた海外の学校の先生に、次の内容を英語で伝えなさい。

「数学は得意だが、理科がやや苦手。運動は好きなので、体育の時間には得意なサッカーのゲームをやってほしい。放課後には演劇をやりたいが、どうすれば活動に参加できるのか知りたい」

### LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度で英語のスピーチを行いなさい。

「雪国に暮らすことの楽しさや利点について」

「日常の中で、ことばが持つ力について」

## PART 3 「読むこと」

### LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

flower / window / seven / visit

### LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- I have two Australian friends. Their names are Bill and Nancy.
- My mother is now cooking breakfast in the kitchen.

### LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

#### *The Lion Dance*

Last February, Jane visited Japan with her family. On the second day of the trip, they went to Yokohama because Jane's father wanted to see Chinatown. There were many restaurants and interesting stores in Chinatown. They enjoyed looking around there, and Jane bought some presents for her friends at school.

When she was at a gift shop, she heard some music and saw a lot of people in the street. "What's that?" she asked the shopkeeper. "It's the Lion Dance," he said.

Jane and the shopkeeper went out to watch the dance. Jane saw two people in a lion costume. "There are two dancers in the lion," said the shopkeeper. It was very colorful. There were also three musicians with the lion, and they were playing loud music. The shopkeeper said, "The lion is colorful and the music is loud because monsters don't like those things." "That's interesting," said Jane.

### LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

#### *A Special Day in Alice Springs*

Australia has many famous animals such as koalas and kangaroos. But not many people know that there are also camels in Australia. A town called Alice Springs even has a special event, "The Camel Cup," every July. At this event, people ride camels in races.

The first camels were brought to Australia in 1840 from Asia. Camels don't need to drink a lot of water, so they were useful in the dry Australian desert. They were used to carry the mail, food, and other things to small towns like Alice Springs. Between 1860 and 1907, about 12,000 camels were brought to Australia. But in the 1920s, people started using trucks and trains to carry things. Camels weren't needed anymore, so they were set free in the desert.

For many years, nobody tried to use the camels. Then, in 1970, two men in Alice Springs had a camel race for fun. People enjoyed watching the race, so they decided to do it every year. Now, many people ride camels in the Camel Cup. The races are always exciting to watch because nobody knows what will happen! Some of the camels just sit down, some don't move, and others run the wrong way. Riding camels is hard work, but the winners can get interesting prizes.

There are other attractions on the day of the races, too, and people can also buy food and drinks. The people of Alice Springs really enjoy the Camel Cup, and the money from this event is given to volunteer groups in the town. Camels are becoming an important part of life in the Australian desert once again.

**LEVEL 5**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

***Saving the Kiwi***

Many people who heard the word "kiwi" will think first of the kiwi fruit. For New Zealanders, however, "kiwi" is the name of their national bird. The kiwi is an important symbol of the country and a very unusual bird. About the size of a chicken, the kiwi has wings but cannot fly, and it is active mainly at night. The bird's eggs are also surprisingly large -- almost one-fourth the size of the kiwi itself. Unfortunately, this unique bird has been facing problems in recent years.

There used to be millions of kiwis living in New Zealand, but today there are only about 85,000 left. The main reason for this decrease is that people introduced new animals such as dogs and ferrets to the country. These animals hunt the bird and eat their eggs. Kiwis also face danger from human beings themselves. Many kiwis are killed by cars every year, and many of the forests where they live have been cut down to make room for farms and houses.

In order to stop the kiwi population from decreasing even further, the Kiwi Recovery Program was started in 1991. Researchers in this program are working to monitor the kiwis and create safe areas where the birds can live. Young kiwis are taken from the wild to be raised, and are later returned to safe locations on small islands off the coast of New Zealand. Educating people about kiwis is another important part of the Kiwi Recovery Program. For example, pet owners can help by keeping their animals away from areas where kiwis are known to live. The researchers hope that these continued efforts will help make sure that New Zealand does not lose its unique symbol.

**LEVEL 6**

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

***Biting Back***

Anyone who has ever been bitten by a mosquito knows that these insects can make life very unpleasant. But mosquitoes, which are found all over the world, are more than just annoying. Many types of mosquitoes carry serious diseases such as malaria and yellow fever. Every year, over 3 million people worldwide die from diseases caused by mosquito bites, and the problem is getting worse in many countries.

Currently, the most popular method of reducing mosquito populations is to use chemicals that kill mosquito larvae in the pools of water where they live. This approach, however, has met with some difficulties. Some people are worried that the chemicals may cause damage to the environment. Another problem is that there are over 3,000 types of mosquitoes, and some of these are no longer affected by the most widely used chemicals.

Recently, though, researchers at the University of Florida have developed a new way to deal with the mosquito problem. The researchers found a hormone that prevents mosquitoes from digesting their food. Although the mosquitoes can eat, they cannot gain energy from their food. The researchers realized that if mosquitoes absorbed this hormone in large amounts, it would cause them to die of hunger. They decided that the best way to deliver the hormone would be to use yeast, one of the favorite foods of mosquito larvae. They succeeded in creating a type of yeast that produces the hormone naturally. When this yeast is put into ponds and other places where mosquitoes lay eggs, the mosquito larvae eat the yeast and die before they can become adults. And with fewer adult mosquitoes, fewer people get bitten.

In laboratory tests, the yeast was 100 percent effective in getting rid of mosquito larvae. Moreover, unlike the chemicals currently being used, the new yeast is effective against all types of mosquitoes. And the yeast is so environmentally safe that it can be put into drinking water with no harmful effects. The researchers who have developed the yeast expect that it will soon become commercially available. When it does, the fight against mosquitoes may become easier for all of us.

LEVEL 7
---------

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

*Forgotten Fruits*

When you hear the word "extinct," you may think of such creatures as dinosaurs and dodo birds. But did you know that the majority of the fruits, vegetables, and other crops our grandparents took for granted are now extinct? Take the Ansault pear, for instance. The succulent, buttery taste of the Ansault was described by agriculturalist U. P. Hedrick as "better than any other pear," with a "rich, sweet flavor and distinct but delicate perfume." The Ansault pear has now joined the dodo bird, and it's not the only fruit or vegetable that no one will ever taste again. There were 578 types of beans available in 1903, while today there are only 32. In 1973, there were 46 varieties of asparagus, but now there is only one.

Despite the direct impact this has on our lives, most people are unaware of such extinctions, feeling that the choice of fruits and vegetables on today's supermarket shelves is wide enough. And to think that, from the dawn of farming thousands of years ago, farmers continuously made efforts to increase crop diversity. Early Peruvian farmers, for example, noticed color mutations in the cotton grown in their fields, so they bred selected cotton types to produce the vibrant colors they desired for making attractive cloth. Later, migrating peoples took their seeds with them when they relocated to vastly different geographic areas, and the different growing conditions would naturally increase crop diversity as crops reacted new environments. Early in the twentieth century, farmers grew different kinds of crops for another reason: if pests or disease successfully attacked one variety, other varieties often proved to be more resistant.

All this changed with the advent of agribusiness after World War II. Fruits and vegetables were developed to meet the needs of huge new farms. Now farmers often grow only one variety of a given crop, a variety designed for high-yield growth and the ability to survive mechanical harvesting and long-distance shipping.

Many of these crops are no longer self-reliant -- they require huge amounts of fertilizer, pesticide, and insecticide for their survival, and some can no longer reproduce naturally. The reduction of variety and the creation of crops completely dependent on modern farming technology increase crop vulnerability to stress and disease.

One early example of what can happen with the homogenization of crops is the potato famine of Ireland. All potatoes grown in Europe in the 1840s descended from a handful of potatoes brought from South America, so they has a limited gene pool. They lacked resistance to the potato blight that struck Europe in 1845. The resulting famine in Ireland killed well over a million people. Potatoes in Europe eventually enjoyed a comeback when other blight-resistant varieties from Mexico and South America were introduced. Imagine what would have happened if those other varieties had no longer existed.

## PART 4 「書くこと」

### LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。  
afternoon / thank / library
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「(あなたは)テニスが好きですか」

### LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。  
Yuki washes the dishes after dinner every day.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。  
「友達と遊ぶのが好きです」

### LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「どの季節が一番好きですか」「春です。あなたは？」
  - ・「駅の近くに本屋はありますか」「すみません、わかりません」

### LEVEL 4

- 次のうちの1つについて、3～5文の英語で書きなさい(制限時間10分)。
- ・日本国内でどこに行きたいか、その理由
  - ・何語を身に付けたいか、その理由

### LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・日本の食べ物を海外の友人に紹介しなさい。特定の1つについて、名称、製法、味、見た目(色など)を伝える。

### LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・自分の将来の夢と、いつ頃からなぜその夢を抱くようになったかを述べ、実現のために今努力していることを伝える。

### LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・実例を交えながら、自然災害の驚異について触れ、個人としての日常の備えや心構え、及び社会全体としての対策等を論じなさい。